

タケニグサ

[草本] 《忌避》



路肩などで普通に見られる。



日当たりのよい所に群生する。



葉は深裂し裏は白い。

区別のポイント

丘陵地や日当たりのよい山の荒地に見られる。茎は中空で切ると黄色の乳液を出す。有毒植物。

形態 多年草。高さ1～2 m。

分布 本州・四国・九州

名前の由来 茎が中空で竹に似ているから。竹を煮て柔らかくするなど諸説。

葉 〈全体〉広卵形で長さ10～30 cm。掌状深裂。裏面は帯白色、縮毛が密生。

〈付き方〉互生。

〈葉柄〉10 cm前後。

〈基部〉心形。

〈縁〉不揃いの欠刻あり。

備考：有毒：プロトピン、サンギナリン、ヘレリトリン（アルカロイド）。

出典：1